



出典：DS02とDS86による白血病のノンパラメトリックな線量反応（1950～2000年）
 Preston *et al.*, Radiat Res, 162, 377, 2004より作成

※1：（公財）放射線影響研究所が1986年に確立した、原爆被爆者の被ばく線量推定方式

※2：DS86に代わり、2002年新しく確立した線量推定方式

※3：白血病の場合、重み付けした骨髄線量（中性子線量を10倍したものとγ（ガンマ）線量の和）を使用

原爆被爆者における白血病の過剰症例数の結果から、白血病の線量反応関係は二次関数的であり、低線量では、単純な線形線量反応で予測されるよりもリスクは低くなっています。しかし、0.2～0.5 グレイの低い線量の範囲でも白血病リスクの上昇が認められています。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2015年3月31日